

令和2年度(令和元年度実施事業分)事務事業評価評価票

No. 14-012

PDCA	事務事業名	ごみステーション整備事業	部課等名	市民経済部 クリーンセンター ごみ減量担当	担当	深川	
					内線等	23-3567	
P 総合計画との関係性等	政策体系	章： 第3章 にぎわいの創出と良好な環境が両立するまち 節： 第2節 環境との共生 基本施策： 2. 廃棄物対策 単位施策： (2) 廃棄物の処理 個別施策： ②廃棄物の適正処理					
	根拠法令等	半田市廃棄物の減量及び処理に関する条例施行規則					
	対象・目的	ごみステーションは、毎日の一般家庭から排出される場所であり、常に清潔で利用しやすい状態にしておく必要がある。					
	目的を達成するための手段・活動内容	住民要望等によるごみステーションの新設や分散化を図るため、整備体制を充実させるとともに、老朽化に伴う枠の補修や散乱防止ネットの取替え等を随時実施し、適正なごみ出しの推進に努める。 自治区と連携・協力を図り、カラスや猫の対策及び地域特性に合ったごみステーションの構築を実施。					
D 前年度の活動結果と見られた成果	活動結果	活動実績	29年度	30年度	元年度	単位	
		①ごみステーション設置数	1,992	2,020	2,056	か所	
		②枠の補修数	35	76	86	基	
		③ネットの取替え数	262	253	209	枚	
		事業費	3,796	5,409	6,849	千円	
		人件費	12,930	14,264	13,041	千円	
		総事業費	16,726	19,673	19,890	千円	
		活動単位当たりのコスト	29年度	30年度	元年度	単位	
		①ごみステーション維持管理及び整備費(1か所当たり)	8.4	9.7	9.7	千円	
	成 果	成果指標	29年度	30年度	元年度	単位	
		①ごみステーション新設数	実績値	56	39	46	か所
			目標値	30	30	40	
			実績値				
目標値							
		実績値					
	目標値						
C 課題の整理	観点別評価	必要性	有効性		効率性		
		①市の関与の妥当性 妥当	④上位施策への貢献 大きい	⑦コスト削減余地 ない			
		②市民ニーズ 高い	⑤成果向上の余地 ある	※対象・手段の変更			
		③休廃止の影響 大きい	⑥類似事業の有無 ない	⑧受益者負担適正化余地 ー			
	事業の評価・課題	B 折り畳み式のごみステーションなどそれぞれの場所に適したごみステーションを設置することにより、住民の要望に対してきめ細やかな対応ができた。また、開発行為や新築集合住宅においては、自治区との協力体制によりごみステーションを設置するよう指導を行うことができた。ごみステーション未設置の既存アパートについても、地域の実情に応じて新たにごみステーションを設置するよう働きかけ、8箇所設置をした。					
		A 課題解決のための目標	今後の事業の方向性	改善推進 自治区や地域住民の理解と協力を求めながら、ごみステーションを適正に配置する。また、3Rアドバイザーや自治区をはじめとした地域住民、ごみ収集を行う委託業者との連携を図り、ごみステーションの新設や修繕などの対応を迅速に行い、清潔な環境の維持に努める。			
			令和2年度の目標	成果指標	目標値	単位	
①ごみステーション新設数				40	か所		